

令和7年度学校評価書 山梨市立山梨小学校

- 1 学校教育目標 人間性豊かに 心身共に健康で たくましく学んでいく子供の育成
 2 評価結果

評価領域	評価項目	評価の観点	評価：4が満点						○考察	●改善方策
			R6年度			R7年度				
			教職員	保護者	児童	教職員	保護者	児童		
確かな学力の育成	基礎基本の定着	個に応じた指導を行い、学習内容の基礎・基本の定着に取り組んでいる。	3.7	3.5		4.0	3.5		○確かな学力の育成に向けて、個に応じた指導とICTの効果的な活用を意識しながら、計画的に学習を進めることができている。 ●個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、授業の構造化に取り組み、子供主体の授業実践を行っている。	
	ICTを活用した授業改善	ICT機器を有効に活用し、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。	3.3	3.5		3.7	3.5			
	家庭学習の充実	「家庭学習の手引き」を活用し、家庭の協力を得ながら学習指導に当たっている。	3.4	3.4		3.5	3.3			
豊かな心の育成	道徳教育の充実	道徳の授業を中心に、自立心や規範意識を育む教育を行っている。	3.6	3.5		3.7	3.5		○どの学級も、誰もが居心地の良い学級を目指した学級づくりに取り組んでいる。特に心理教育プログラムとして構成的グループエンカウンター(SGE)やソーシャルスキルトレーニング(SST)を活用した学級集団づくりをすることができた。 ●アフターコロナや予測不可能な「VUCA（ブーカ）」と呼ばれる時代を生きていく子供たちにとって、協働していく人間関係づくりは必要不可欠であり、今後も学級集団づくりに取り組んでいく。	
	仲間づくり・集団づくり	相手の気持ちを理解し、認め合い、協力しあう人間関係づくりを推進している。	3.7	3.5		3.8	3.6			
健やかな体の育成	体力づくり	児童の体力の実態に基づき、体力向上に関する指導を行っている。	3.3	3.5		3.7	3.4		○体育的行事は予定通り実施できた。 ●病気の予防については、家庭での取組も含め、今後も継続して実施していく。朝の体育活動の取組（持久走やなわとび運動等）も、継続して進めていきたい。	
	健康づくり	早寝・早起き・朝ご飯を習慣づけるよう取り組んでいる。	3.4	3.5		3.5	3.4			
将来活躍できる人材の育成	地域人材の活用	地域の文化財や人材等を活用し、地域の特色を生かした学習活動に取り組んでいる。	3.4	3.6		3.6	3.5		○どの学年も地域資源を学習活動に取り入れ、地域の方々（ゲストティーチャーとして授業支援をいただきました）との交流学习等を実施することができた。 ●地域の特色を生かした学習を更に推進していきたい。外国語科教育については、「進んで英語を使ってコミュニケーションのとれる児童」の育成を目指し、今後も展開していきたい。	
	外国語科教育の充実	市の外国語科教育に基づき、外国語の基礎的な資質・能力を伸ばす活動を行っている。	3.4	3.3		3.5	3.2			
特別支援教育の推進	特別支援教育の充実	児童の個性や特性に配慮し、誰もが学びやすい環境や授業づくりに努めている。	3.7	3.4		3.4	3.4		○個別の教育ニーズに応じた指導や、いじめの未然防止や早期発見、解決等にあたって、児童に定期的なアンケートを実施しながら、迅速かつ丁寧な対応を組織的にしている。また、スクールカウンセラーによる個別相談ができる体制をつくってある。 ●今後も、「いじめや不登校は、どの学校でも、どの学級でも起こり得ること」として捉え、必要に応じて教職員、保護者、関係機関が連携しながら対応を進めていきたい。	
生徒指導	いじめ・不登校への対応	いじめの未然防止や早期発見、解決等、適切な生徒指導を行っている。	3.8	3.4		3.5	3.3		○年に4回の避難訓練を実施している。地震や火災についての基本的な行動について、意識して行動できるようになっている。 ●水害の被害想定地区に指定されているので、今年度も2月に垂直避難訓練を実施する。	
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	地域や保護者との連携を図り、PTA活動や学校行事等の運営を行っている。	3.8	3.6		3.3	3.5		○運動会、交流持久走大会、有価物回収、登校指導等をPTA各専門部と連携しながら実施することができた。また、学校だより・学年だより等を通して、学校の様子を保護者と共有することができた。 ●今後も、学校、保護者、地域が一体となって教育活動を進めていきたい。また、学校運営協議会との更なる効果的な連携についても考えていきたい。	
	情報の共有化	学校だより等を充実し、児童の様子や学校の方針が理解されるよう努めている。	3.6	3.7		3.1	3.6			
安全教育	安全・防災教育等の充実	定期的な訓練の実施等、緊急時の行動や交通安全、生活安全の教育を行っている。	3.9	3.8		3.8	3.7			
「やる気いっぱい山小っ子」	何事にもねばり強く、最後までやり抜く子供	① 身近な人や家族に明るいあいさつができる。	2.9	3.4	3.5	3.1	3.3	3.4	○教職員の評価ではあいさつの項目が、保護者の評価では勤労の項目が低かった。 ●友達や家族に挨拶ができるかもしれないが、学校の教職員や地域の人に積極的に挨拶をしているとは言えない状況もある。よって、「大きな声であいさつをする」や「自分から積極的にあいさつをする」など、引き続き指導をしていきたい。また、清掃が不十分な場合もあるので、清掃活動はもともと普段から清潔な環境を保つことができるように取り組ませたい。	
		② 進んで家や学校での仕事をする。	3.2	2.9	3.7	3.3	2.8	3.5		
		③ 仕事に責任を持って取り組むことができる。	3.4	3.2	3.6	3.4	3.2	3.6		
		④ 何事にも根気強く最後までやり抜くことができる。	3.4	3.1	3.4	3.2	3.0	3.5		
「学びいっぱい山小っ子」	創意・工夫し、進んで学習に励む子供	① 進んで家庭学習（自学を含む）に取り組んでいる。	3.1	2.9	3.0	3.3	2.9	3.0	○家庭学習と読書の評価が低かった。 ●家庭学習の取組については、引き続き組織的に進めていく中で、取組方法の見本や児童のがんばりを掲示するなど、家庭学習の習慣化を目指して取り組んでいきたい。読書については、紙の本は、誘惑から開放された読書体験、読書の達成感、整理された情報の獲得、知識の蓄積、そして本屋や図書館で思わぬ「運命の一冊に会った」といった、さまざまな魅力を持っている。デジタル時代における紙の本の魅力に目を向ける機会として、読書週間や読み聞かせといった読書活動に今後も取り組んでいきたい。	
		② 学校の授業を楽しみにしている。	3.4	3.2	3.3	3.4	3.1	3.3		
		③ 積極的に読書をしている。	2.9	2.4	3.0	3.2	2.5	3.1		
		④ 学習の準備等が自分できちんとできる。	3.3	3.1	3.4	3.1	3.0	3.4		
「なかよしいっぱい山小っ子」	正しく判断し、心豊かで思いやりのある子供	① 学校や家庭でのきまりや約束を守ることができる。	3.5	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3	○感謝する気持ちを表す、善悪のけじめをつける、相手の立場を考えるといた言動ができていると考えられる。 ●児童に豊かな情操や道徳的な態度を養うとともに、児童の自己受容感を高めるように、今後も教育活動を進めていきたい。	
		② 素直に感謝する気持ちを表すことができる。	3.5	3.5	3.7	3.6	3.4	3.7		
		③ 善悪のけじめがつけられ、正しいと思うことを実行できる。	3.2	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5		
		④ 相手の気持ちや立場を考慮することができる。	3.4	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5		
「心身ともに元気な山小っ子」	心身を鍛え、自他の生命を大切にすること	① 運動に親しみ、進んで体を鍛えている。	3.4	3.2	3.4	3.4	3.2	3.4	○どの項目も達成できている。 ●今後も、「不審者侵入防止対策」「害獣対策」「自転車ルール改正」「長周期地震動」などへの対応方法を検討していく中で、「自助・共助・公助」の行動力を育成し、「シナリオ型からブラインド型へ」の視点を意識した「生活・交通・災害」安全の確保を目指したい。	
		② 手洗い・うがい、病気の予防など健康に心がけている。	3.1	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5		
		③ 交通安全や生活安全等、自分の命を守る行動ができる。	3.4	3.6	3.7	3.5	3.5	3.8		
		④ 命の尊さを理解し、生き物を大切にすることができる。	3.6	3.6	3.8	3.5	3.6	3.7		

3 学校関係者評価委員の評価

○：成果 ●：課題

◎確かな学力の育成について

- ICT機器を有効に活用して授業づくりに取り組んでいて良いと思います。学校だよりに「2年生の生活科で端末を活用し、観察カードに記録していること」が書かれていました。端末活用と書く学習を適切に融合していくことが大切だと思います。
- 教職員、保護者と同じ評価であることは大きく評価できる。また、前年度より向上していることは喜ばしいことである。
- 基礎基本の定着では、教職員評価が上昇しています。このことは、個に応じた指導に先生方の取り組みへの努力の結果が、現れていると思います。改善方策で示しているように、個別の最適な学びを考えながら、全体授業の成果が上がるよう工夫していくことが重要だと思います。また、R7年の教職員の評価は、4で満点となっています。教職員の学力向上への努力の結果が表れていると思います。
- 「家庭学習の充実」では、学校側から家庭への呼びかけを多くすることにより、評価も上がるのではと思います。

◎豊かな心の育成

- さらなる向上を。
- 運動会を参観させていただきました。「競技や演技をがんばる姿」「協力して働いている姿」「応援したりする姿」などたくさんの感動や学びのある運動会だったと思います。
- 「道徳教育の充実」、「仲間づくり・集団づくり」ともに教職員、保護者とも3.5以上の評価となっています。特に「仲間づくり・集団づくり」は、運動会や交流ふれあいまつり等のイベントを通して大きく育まれると思います。先生方にとって学級集団作りは、大変な仕事ですが、教職員、保護者とも大きな評価点となって表れています。現時点の「豊かな心の育成」が、育まれていると感じます。今後も続けていってほしいです。

◎健やかな体の育成について

- 「体力づくり」は、教職員評価が、R6(3.3)からR7(3.7)と急上昇であります。これは、全教員の努力の結果だと思います。小学生の体力づくりは、日々、先生方による毎日の指導訓練ができてきている結果だと考えます。
- 「健康づくり」は、保護者の協力をしてもらい風邪をひかない丈夫な体にしていきたいものです。「健康づくり」の早寝・早起き、朝ご飯の習慣づけは、家庭での保護者からの指導が大きいものです。学校側から保護者への注意喚起を重ねてほしいです。

◎地域人材の活用

- どの学年も地域人材や資源を活用した授業を取り入れ、評価が高いです。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校が情報や課題を共有し、地域の方の得意分野を生かし、子供たちの学びを充実させていってほしいです。
- 今後もぜひ地域の方々のお話を聞く機会を設けてほしいです。過去に活躍した地域の芸術家、技術者、科学者、作家等の話を地域の人々から聞く機会を設けるのも良いのではないのでしょうか。

◎生徒指導について

- 「いじめ・不登校への対応」は、児童への定期的なアンケート実施と迅速かつ丁寧な対応を、今後も取り組んでいただきたいです。早期の対応をするよう心がけていただきたいです。
- 全国的に問題となっているいじめ、不登校対応に教職員自身の評価が低い課題があるのでしょうか。

◎家庭・地域との連携について

- 学校たより等で、学校の方針、子供たちの頑張る様子、地域や外部との連携した取り組み、家庭への協力をお願い等、情報が共有されていると思います。
- 「開かれた学校づくり」において「山小だより」は、山梨地区のみで結構ですので区長さんを通じて配布願いたいです。現有の校長先生の書かれた「山小だより」の分量ぐらいが丁度良いと思います。各部落で回覧として読んでもらえればと思います。特に運動会などは、地域の人々に山小をPRする良い機会です。子供がいなくても運動会に見に来たい人たちがいっぱいいます。
- 「開かれた学校づくり」「情報の共有化」の教員評価が低い理由は何でしょうか。

◎安全教育について

- 保護者も児童も評価が高いです。防災訓練、防犯訓練、交通安全、SNS等、ご指導よろしくお願いたします。
- 安全・防災教育が実施されていますが、今後も避難訓練等、定期的な安全への訓練を実施されることを希望します。「安全防災教育等の充実」の項では、教職員、保護者ともに高評価となっています。それだけに学校側も安全防災に力をいれていることがわかります。今後もぜひ安全防災に力を入れることを希望します。
- 地理的に地震が一番怖いので、「怖さと対策」に重点をおいた指導を。

◎めざす子供像「や・ま・な・し」について

- 登校指導の際にもあいさつをしてくれるようになってきたと思う。
- 毎朝近くの登校班の子供たちに会いますが、挨拶をしています。挨拶の大切さを教え、こちらから明るく挨拶を続けることだと思います。そうしていると、日中会った時に手を振ってくれる子供もいます。
- こども達のあいさつは、教職員から見た評価では、まだまだのようです。あいさつができるように根気よく指導をおねがいします。
- 「②進んで家や学校での仕事をする」項目での評価は、保護者、教職員ともに評価が低いです。特に保護者は3.0以下の評価です。「進んで仕事をする」ことに関して、親と子供、先生と子供の「話し合い」を日常的に行うような環境作りが必要ではないでしょうか。
- 「④何事にも根気強く最後までやり抜く」項目では、些細なことでもやり抜いたことが出来たとき、大きく褒めてあげる機会を多く持ってほしいです。
- 「①進んで家庭学習に取り組んでいる」項目では、保護者の評価は、厳しく3.0以下であります。家庭学習は、学校からの目が届かないために、保護者の評価が実際に現れていると考えられます。学校側と保護者の間で連携をとることも重要なのではと思います。
- 「積極的に読書をしている」項目についてです。昨年度の改善方策で「①朝活動での取組内容について、検討していく」、「②電子書籍が十分に活用されていないので、メディアコントロールの重要性と併せて、今後も声かけをしていく必要がある」と2点示されました。読書週間や図書委員会の読み聞かせの取組も含めて、教職員の評価が昨年度より上がりました。家庭では、宿題、習い事、テレビ、スマホの利用などの時間が多く、読書の時間が少ないのではないかと考えられます。文化庁の調査によると1か月に1冊も本も読まない人が6割を超えていますが、知識や教養、語彙力の向上などのメリットは言うまでもありません。家庭でも読み聞かせをしたり、本の良さを伝えたりできると良いと思います。
- 「③積極的に読書をしている」項目では、子供たちの読書への保護者の評価は、厳しいものがある。本以外にテレビ、ゲーム等、色々な遊びがあり、保護者の読書への評価は、当然のように思われます。しかし読書への指導の仕方によって本への興味の仕方が変わってくると思います。読書指導にぜひ力を入れてほしいです。

- 「あいさつ」「勤労」「家庭学習」「読書」について、改善を強く望む。
- 「家庭学習の充実」「読書」について、今年も評価が良くない。何か特別な対応策を試みているのでしょうか。
- 短絡的な SNS が席卷する時代にじっくり取り組む読書体験は重要だと思うので、読書の機会を設けるようお願いしたい。
- 「やる気いっぱい」と「学びいっぱい」で3未満の項目数が減少している。粘り強い取組の成果ではないか。
- 「なかよしいっぱい山小っ子」項目では、正しく判断し、心豊かで思いやりのある子供になってほしいとの意味で、評価項目を掲げていると思います。全体的な評価結果は、教職員、保護者、児童ともに 3.2 以上の評価となっており、山小っ子は、心豊かで思いやりのある子供に育っていることがわかります。今後も続けていってほしいです。
- 「①運動に親しみ、進んで体を鍛えている。」項目は、教職員、保護者、児童の評価がほぼ同じ評価値となっています。からだを鍛えている様子がわかります。ただし評価点が 3.4 以上無いことから、以上になるよう期待したいものです。
- 「②手洗いうがい、病気の予防など健康に心がけている。」項目は、教職員が思っているよりも児童の予防への心がけは、低いことが評価点から読み取れます。今後は、子供への注意呼びかけを、今以上に徹底する必要があるかと思えます。
- 「③交通安全や生活安全等、自分の命を守る行動ができる。」「④命の尊さを理解し、生き物を大切にすることができる。」の項目は、児童の命に関わる問題であり、強力な指導を心がけたいものです。

◎全体を通して

- 日頃より、子供たち一人ひとりに丁寧に関わっていただき、安心して学校生活を送らせていただいていることに感謝しています。
- 学校だよりや学年だよりを発行していただくことで、行事や日々の様子が分かりやすく、家庭でも話題にしやすいと感じています。
- 今後も子供たちが安心して自分らしさを表現しながら学び合える学校づくりと、家庭と学校が協力しやすい関係を大切にさせていただけることを期待しています。
- 過去4年間と同じく、教員、保護者、児童本人の評価が学校に対して、信頼している主旨の好ましい状況が反映されている。健全な学校運営が達成されて関係者として安心できる。特に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「なかよしいっぱい山小っ子」等について。
- 登校時に班ごとの上級生による指導力が良いと思われる。
- 運動会では、各色分けごとの対応力に感心した。また、種目ごとの進行、片付け等も上級生がしっかりやっていた。
- 「世代間交流グラウンドゴルフ」では、地区のお年寄りの指導により、上達の早さには感心しました。
- 「交流ふれあい祭り」では、ブースごとのチームワークが良かった。
- 保護者と教師との回答差があるのはなぜでしょうか。
- 今現在かかえる学校の課題や問題点を共有し、解決に向けて検討できるものは正直に示して協力していきたい。